

2-2 北海道地方の地殻変動

Crustal Movements in the Hokkaido District

国土地理院

Geospatial Information Authority of Japan

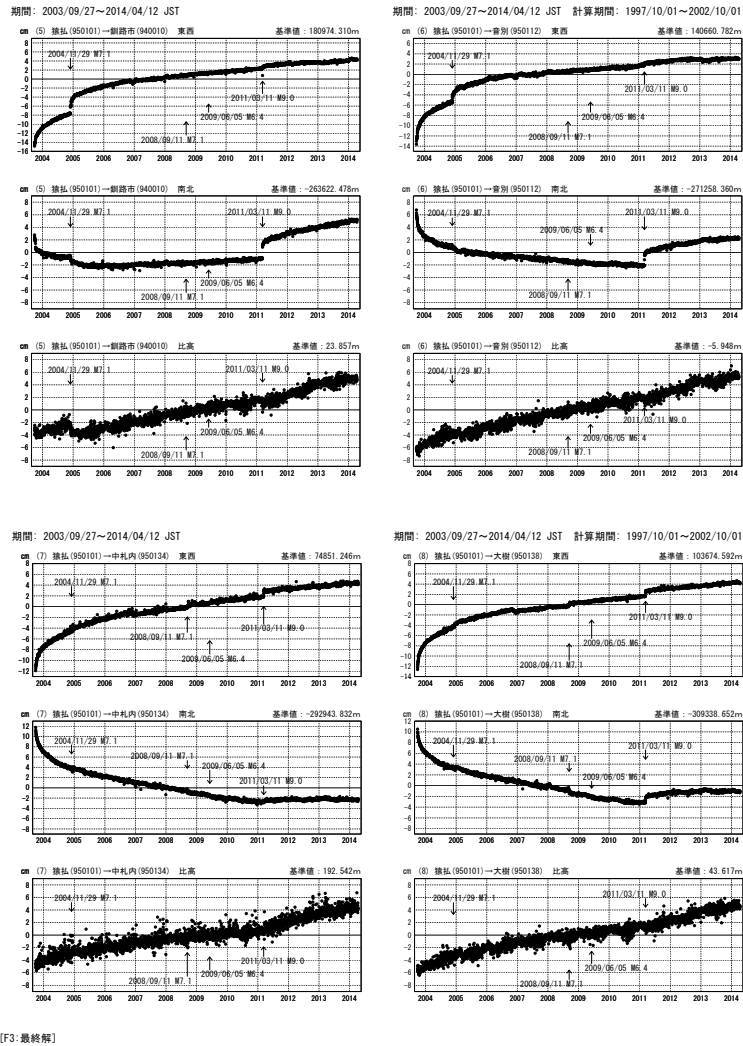
[GNSS 2003年9月26日の十勝沖地震以降の地殻変動時系列]

第1～4図は、根室から鹿部にかけての北海道太平洋側における2003年十勝沖地震（M8.0）後および2011年東北地方太平洋沖地震（M9.0）後の余効変動の推移を示す時系列グラフである。第1図に観測点の配置と、アンテナ交換等の保守の履歴を示す。

第2～4図は、北海道の猿払観測点を固定局として、定常状態にあると仮定した1997年10月～2002年10月の期間について推定された1次トレンド成分を、各基線の地殻変動時系列から除去した時系列グラフである。2003年9月26日の十勝沖地震と2004年11月29日の釧路沖の地震（M7.1）の余効変動が地震直後に始まり、減衰しながらも9年以上の長期にわたって続いた様子を見ることができる。(7)～(10)の水平成分には、2008年9月11日の十勝沖の地震（M7.1）および2009年6月5日の十勝沖の地震（M6.4）による地殻変動が見られる。これらの観測点の水平成分には、余効変動も見られる。2003年・2008年・2009年の地震の余効変動を見分けるのは難しいが、全体としては、余効変動は着実に減衰傾向にあった。ただし、十勝地方から釧路にかけての地域（(5)～(8)）の上下変動については、十勝沖地震以前の沈降に対する相対的な隆起傾向が、少なくとも、2011年の東北地方太平洋沖地震の直前まで継続していた。2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震による跳びとその後の余効変動が見られる。(7)～(12)の観測点では東北地方太平洋沖地震以後に地震前の変化に対する相対的な隆起傾向が見られるが、えりも1から西側の観測点（(9)～(11)）は鈍化が見られる。

北海道太平洋岸 GNSS連続観測時系列 (3)

1次トレンド除去後グラフ

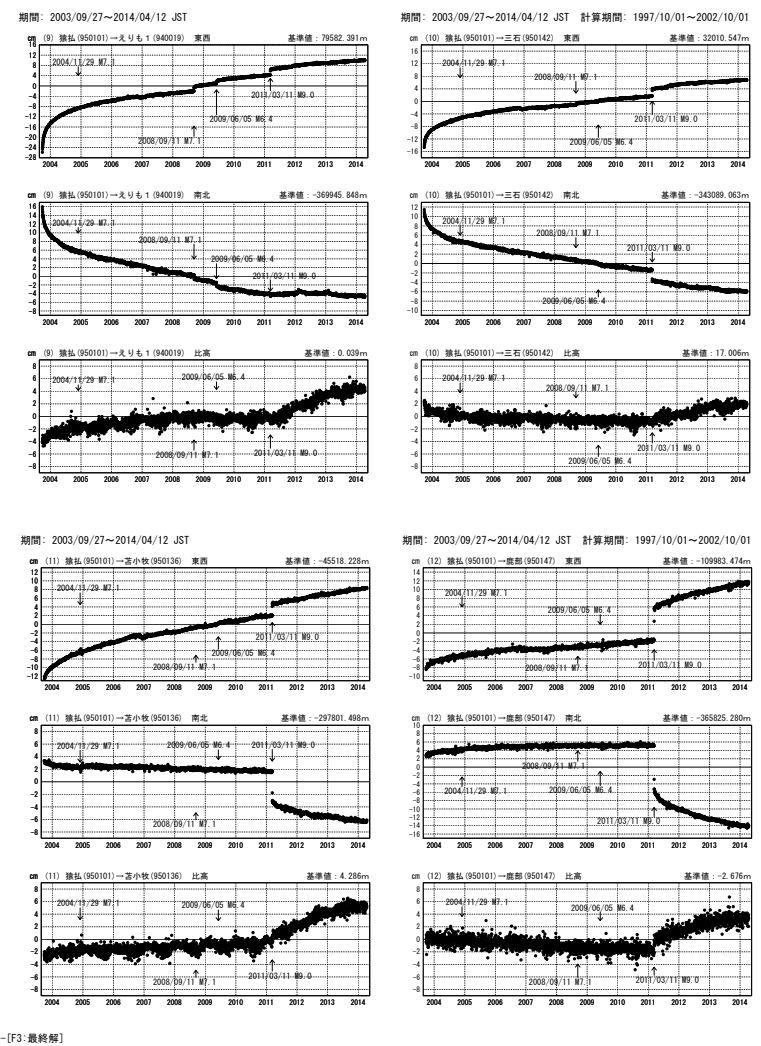


●—[F3:最終解]

第3図 北海道地方東部・太平洋岸におけるGNSS連続観測結果：固定点猿払に対するトレンド成分を除去した時系列
Fig. 3 Results of continuous GNSS measurements along the eastern region and the Pacific coast of Hokkaido: (corrected time series data removing linear trend referred to Sarufutsu) (2/3).

北海道太平洋岸 GNSS連続観測時系列 (4)

1次トレンド除去後グラフ



●—[F3:最終解]

第4図 北海道地方東部・太平洋岸におけるGNSS連続観測結果：固定点猿払に対するトレンド成分を除去した時系列
Fig. 4 Results of continuous GNSS measurements along the eastern region and the Pacific coast of Hokkaido: (corrected time series data removing linear trend referred to Sarufutsu) (3/3).